

# 国立大学法人大阪大学の中期目標

平成31年3月26日 文部科学大臣提示

## 国立大学法人大阪大学の中期目標

### （前文）大学の基本的な目標

世界には、民族、宗教、言語、制度、習慣などの多様性が存在する。この多様性は、革新的なイノベーションの創出や人類社会の発展にとって不可欠である一方で、時として、グローバル社会の健全な発展にとっての障壁にもなりうる。21世紀の人類は、こうした様々な要因が複雑に絡み合って噴出する社会的課題を解決するとともに、最先端の科学や技術開発がもたらす恩恵等を通して、人間性豊かな社会を構築しなければならない。そして、それを成し遂げるためには、学問の府である大学が、学問を介して多様な知の協奏と共創の場になることが必須である。未来を切り拓く原動力はここから生まれる。

こうした背景を踏まえ、大阪大学は、その源流である懐徳堂と適塾の精神を継承し、優れた頭脳と才能が互いに切磋琢磨し、その潜在力を最大限に引き出しうる充実した環境を提供し、世界最高水準の教育研究を目指す。世界に貢献する大学として、異分野融合による新学術領域の創成や専門分野を超えた能動的な知の統合学修を通じて、様々な要因が複雑に絡み合っている地球規模の社会的課題を独創的なアプローチで解決するとともに、最先端の科学や技術の発展を推進し、人間性豊かな社会の創造に大きく貢献する人材を輩出する。

大阪大学は、学問の真髄を極める卓越した教育研究を追求するとともに、学問を介して、知識、技能、経験、立場などの多様性を有する人々との相互理解と協働を通じて、イノベーションを創出する。「地域に生き世界に伸びる」をモットーとする大阪大学は、国内外の市民や行政、経済、産業界などの幅広いパートナーと手を携え、社会と大学が「知と力」を合わせた創造的な活動を展開するという共創を通じて、優れた成果を世界に還元する。そして、社会変革に貢献する世界屈指のイノベティブな大学を目指して、持続的に発展し活力ある社会を創出する人材の育成や新たな価値の創成といった、グローバル社会が求める負託に応えていく。

### ◆ 中期目標の期間及び教育研究組織

#### 1 中期目標の期間

平成28年4月1日から平成34年3月31日までの6年間とする。

#### 2 教育研究組織

この中期目標を達成するため、別表1に記載する学部及び研究科を、別表2に記載する国際共同利用・共同研究拠点、共同利用・共同研究拠点及び教育関係共同利用拠点を置く。

#### I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

##### 1 教育に関する目標

###### （1）教育内容及び教育の成果等に関する目標

1. イノベーションを創出するため、高度な専門知識と豊かな教養、深い国際性と高いデザイン力を有し、社会を牽引することができる「知」を備えた人材を育成する。

###### （2）教育の実施体制等に関する目標

2. 世界最高水準の教育研究拠点として教育の質向上を恒常的に行う体制を整え、教育成

果を有効にあげられる組織の構築と教育のグローバル化を図り、教育力の強化に取り組む。

### **(3) 学生への支援に関する目標**

3. 学生の生活・学修・キャリア形成を支援する取組を充実させ、安心して意欲的な学修に取り組むことができる環境を整備する。

### **(4) 入学者選抜の改善に関する目標**

4. 多様な能力や経歴を持つ、志の高い優秀な人材を国内外から選抜するため、入試方法の多様化と多面的・総合的入試のための体制整備に取り組む。

## **2 研究に関する目標**

### **(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標**

5. 革新的なイノベーションの創出や人間性豊かな社会の実現のため、学内の多様性を強みとした異分野融合による新たな学術領域の創成、先進的な学術研究の推進により、独創性のある卓越した基礎・基盤研究を振興する。

### **(2) 研究実施体制等に関する目標**

6. 世界最高水準の研究を推進するため、優れた頭脳と才能を引き付け、互いに切磋琢磨できるグローバルかつ闊達な研究環境を整備する。
7. 附置研究所・センター等における共同利用・共同研究を通じて大学の研究力向上に寄与するとともに、附置研究所・センター等の機能を強化する。

## **3 その他の目標**

### **(1) 社会連携や社会貢献に関する目標**

8. 産学官民等、社会のあらゆる担い手との双方向の交流を促進し、本学の優れた研究成果の還元と新たな価値の創造を実現することで、社会との共創に基づくイノベーションを創出し、人類社会の発展に貢献する。
9. 大学知の循環を活発化させるため、大学の知的資源を広く社会に発信し、社会との連携・協働による社会貢献活動を行う。

### **(2) グローバル化に関する目標**

10. 徹底したグローバル化に向けた改革を全学的に断行し、グローバルネットワークを拡大することで、国際競争力を高め、世界の有力大学との学術交流のさらなる活性化を図る。

### **(3) 産業競争力強化法の規定に基づく出資等に関する目標**

11. 大学によるイノベーション活動の世界標準化のため、産業競争力強化法に基づく認定特定研究成果活用支援事業者に対して出資並びに人的及び技術的援助等の業務を行うことにより、大学における技術に関する研究成果の事業化及び教育研究活動を活性化させる。

### **(4) 附属病院に関する目標**

12. 先進医療開発病院、高度機能病院及び地域中核病院としての機能を向上させる。

13. 教育・研修機関としての大学病院の使命を果たす。
14. 適切な運営基盤を構築し、大学病院の診療の活性化を推進する。

## II 業務運営の改善及び効率化に関する目標

### 1 組織運営の改善に関する目標

15. 総長のリーダーシップのもと、機動的・弾力的な組織運営を行い、大学の強みや特色を活かし、大学が直面する諸課題に迅速に対応する。大学の構成員の合意形成と透明性の確保を旨とする経営戦略に基づくガバナンスを確立する。
16. 大学の多様な活動を支えるため、多様な人材の活用、教職員人事の活性化と人事制度の柔軟な運用を推進する。

### 2 教育研究組織の見直しに関する目標

17. 教育研究力の活性化に向けた組織の在り方を恒常的に見直し、効果的かつ未来志向な組織整備を進める。

### 3 事務等の効率化・合理化に関する目標

18. 高度な教育研究をサポートする効率的・効果的な事務体制の確立に向けた取組を進める。

## III 財務内容の改善に関する目標

### 1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標

19. 安定的かつ発展的な経営を行うため、外部資金を獲得しつつ、大学独自の基金制度により自己収入を増加させる。

### 2 経費の抑制に関する目標

20. 健全な財務内容を維持するため、経費の抑制とコストの削減を行う。

### 3 資産の運用管理の改善に関する目標

21. リスクに留意しながら資産と資金の有効な運用を行う。

## IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

### 1 評価の充実に関する目標

22. 教育、研究、社会貢献及び管理運営に関する大学の諸活動を点検・評価し、その結果を組織運営の改善につなげる。

### 2 広報に関する目標

23. 社会と向き合う戦略的な広報を展開して、大阪大学の認知度を国内外で高める。

## V その他業務運営に関する重要目標

### 1 施設設備の整備・活用等に関する目標

24. 地球環境に配慮し地域・社会と共生する安心・安全なキャンパスを整えつつ、教育研究における世界最高水準のグローバル・イノベーション拠点の実現を目指す。

### 2 リスク管理に関する目標

25. 全学的なリスク管理体制のもと、危機管理意識の高い教育研究環境を構築する。

### 3 法令遵守等に関する目標

26. 国民からの期待に応え、信頼される大学として、社会の要請や課題に対応しつつ、法令を遵守し、適正な大学運営を行う。

別表 1 (学部、研究科等)

学 部	文学部 人間科学部 外国語学部 法学部 経済学部 理学部 医学部 歯学部 薬学部 工学部 基礎工学部
研 究 科	文学研究科 人間科学研究科 法学研究科 経済学研究科 理学研究科 医学系研究科 歯学研究科 薬学研究科 工学研究科 基礎工学研究科 言語文化研究科 国際公共政策研究科 情報科学研究科 生命機能研究科 高等司法研究科 大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科

別表 2 (国際共同利用・共同研究拠点、共同利用・共同研究拠点、教育関係共同利用拠点)

<p>【国際共同利用・共同研究拠点】 核物理研究センター</p> <p>【共同利用・共同研究拠点】 微生物病研究所 産業科学研究所 蛋白質研究所</p>
--

社会経済研究所  
接合科学研究所  
レーザー科学研究所  
サイバーメディアセンター

**【教育関係共同利用拠点】**

日本語・日本文化教育研修共同利用拠点（大阪大学日本語日本文化教育センター）